



私が建てた二世帯は、 息子が帰る場所でもあった。

息子が家庭をもち家を出て、また妻との二人ぐらしに戻った。

30年前、父の家を二世帯住宅に建て替え、

私の4人家族と、父母との二世帯ぐらしが始まった。

介護はプロに頼みつつ、心配なときすぐ部屋をのぞけるから、

二世帯は離れてくらすより安心だった。

親父とお袋の死に直面し、泣き続ける息子の姿は心が痛んだ。

子どもたちに、私たち夫婦の老後の面倒をってもらうつもりはなかった。

この家を引き払い、施設のお世話になるつもりだった。

息子にそれを話したら、「僕の帰る場所がなくなるだろ」と叱られた。

そのことを妻に伝えたら、いろいろ苦勞をかけた彼女は言った。

ふふ、二世帯も悪くなかったみたいね。涙がこぼれた。

二世帯ぐらし30年、今、笑っている。

考えよう。答はある。

ヘーベルハウス

事実。二世帯で同居をしている「孫の74%」が「その家を住み継ぎたい」と答えています。

(旭化成ホームズ「30年暮らした家基による二世帯住宅の評価と住まい継承の実態」調査より)